

現職教育資料

^
第
448
号
v

はじめに.....1
 運動部活動の意義.....1
 運動部活動の現状.....1
 これからの運動部活動.....3
 参考資料.....3
 おわりに.....3

魅力ある運動部活動

- 完全学校週5日制を踏まえて -

はじめに

栃木県教育委員会では、来年度から実施される完全学校週5日制の下での中・高校における運動部活動の適切な運営と指導の充実を目指して、平成10年度から12年の3年間、「運動部活動の在り方に関する調査研究委員会」の委員の方々から御意見をいただき、「魅力ある運動部活動 - 完全学校週5日制を踏まえて - 」を作成しました。以下その概要について紹介します。

運動部活動の意義

(1) 運動部活動は、学校教育活動の一環として展開され、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒によって自主的に組織され、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動です。さらに、生徒の心身の健全な発達と豊かな人間性の育成を図る上で、大変有意義な活動です。

また、第15期中央教育審議会第一次答申の中で強調されている「生きる力」の育成にとっても、極めて好適な活動です。

(2) 運動部活動の位置付け

運動部活動は、教育課程内の活動ではありませんが、学習指導要領において「保健体育の指導計画の作成に当たっては、第1章総則第1(款)の3に示す学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし、特別活動、運動部の活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意するものとする。」と明記されています。

さらに、中学校学習指導要領解説<保健体育編>では、「自発的・自主的に参加する運動部の活動」と表現されるとともに、「運動部の活動」に次のように定義されています。

学校において計画する教育活動

より高い水準の技能や記録に挑戦する中でスポーツ等の楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動

体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動

希望する同好の生徒によって行われる活動

このように、運動部活動は、学習指導要領にしっかりと位置づけられた活動であり、学校教育活動の中で豊かな人間性をはぐくむために大きな役割を担っている活動であるということが出来ます。

運動部活動の現状

(1) 活動について

本県の生徒は、「自由に過ごせる時間(休日)が少ない」と考えている生徒が多いようです。(図1参照)

(2) 生徒のニーズの多様化について

運動部員数が減少傾向にあり、単独校でチームが組めない学校もあります。

また、競技志向と楽しみ志向など、生徒の目的が二極化しており、スポーツ以外のことをやりたい、学校にある部活動以外のスポーツをやりたいなど、生徒のニーズが多様化しています。(図2・3・4参照)

(3) 指導者について

指導者は、学校の仕事が多くゆとりがないと感じており、一方生徒は専門的指導を欲しており、指導者が不足しています。(図5参照)

(4) 保護者について

保護者の関心は高いものの、子どもの生活にゆとりがないと感じています。(図6・7参照)

(5) 地域におけるスポーツ活動について

中・高校生の地域でのスポーツ活動の実施率は低く、本県の中学校教員の約9割は、何らかの方法で地域への移行を望んでいます。

また、全国の中学校・高等学校の保護者の9割以上は、学校に残した方がよいと考えています。

本県では、地域で受け入れられる環境が十分ではない状況にあります。(図8・9参照)

(6) 活動中の事故について

学校における事故の発生は運動部活動中の事故が圧倒的に多い現状にあります。(図10参照)

これからの運動部活動

前述のような現状から、運動部活動の指導は学校で行うことを原則とし、学校週5日制のねらいである「ゆとりある生活」を踏まえて、さらに質的な充実を図るとともに、地域におけるスポーツ活動の動向を見据えながら地域との連携を図り、豊かな人間性や社会性、自ら学ぶ力やたくましく生きるための体力など「生きる力」をはぐくむことを目指します。

(1) ゆとりある活動の展開

・「運動部活動の本質は、生徒が自発的・自主的にスポーツ活動を組織し、展開すること」であることを再認識しなければなりません。そのためには、生徒一人一人の考えや希望を反映させ、実情に対応した各部ごとの特色ある部活動を目指すことが大切です。

・学校週5日制のねらいである「子供たちがゆとりある生活の中で様々な活動を通して豊かな心を培う」ためにも、生徒一人一人の自由な時間を確保することが大切です。

そのためには、週あたり1日以上以上の休養日を設けることや、短時間で効率的な練習計画を作成するなど、学校の実情や生徒の発達段階に応じた部活動の

運営を目指すことが重要です。

(2) 生徒の多様化への対応

・競技志向の強い生徒ばかりでなく、仲間との交流や健康のためという楽しみ志向の生徒など、異なる志向の生徒と一緒に活動できるような部活動の運営を工夫する必要があります。

そのためには、目標達成のために生徒と顧問と一緒に創り上げる部活動を目指すことが重要です。

・学校に希望する運動部が設置されていない場合は、地域のスポーツクラブ・団体などと連携を図りながら、生徒の活動環境を整備する必要があります。

そのためには、生徒のニーズに応えられるよう、地域全体に開かれたスポーツ活動を目標としている総合型地域スポーツクラブの組織化に協力するなど、地域スポーツとの連携を図ることが重要です。

・部員の減少により活動が成り立たない場合は、複数校による合同練習や地域のスポーツクラブでの練習など、他校や地域との連携を図りながら活動環境を整備する必要があります。

そのためには、事前に校内での共通理解を得ることはもとより、相手校や地域のクラブと十分に話し合うことが重要です。

(3) 指導者の確保と資質の向上

・指導者を確保するためには、学校の教員はもとより、専門的な知識や技能を有する地域の指導者の協力を得ることが大切です。

そのためには、教員の部活動に対する理解を促進したり、地域から外部指導者を導入したりすることなどにより、指導者(顧問・外部指導者)を確保することが大切です。

・完全学校週5日制の実施に当たり、ゆとりある運動部活動の運営について、顧問と生徒・保護者との共通理解を図り、学校教育活動の一環として顧問がゆとりをもって指導に当たれるよう、適切に展開していくことが必要です。

・魅力ある顧問になるためには、生徒から信頼される人間性や生徒の発育・発達に即した指導法を身に付けるなど、指導者としての資質の向上を図ることが大切です。

そのためには、積極的に生徒とのコミュニケーションを深めたり、科学的なトレーニング法を研究

するなど、自己研修に努めるとともに、各種研修会・講習会等に積極的に参加して、指導者としての資質を磨くことが必要です。

(4) 保護者の協力

部活動は同好の生徒によって自主的に組織されるものであることについて、顧問、保護者がともに共通理解を深め、生徒が「生きる力」をはぐくめるように配慮することが大切です。

そのためには、顧問と保護者の役割分担を明確にしたり、両者間の連携の取り方などについて話し合う連絡会等を設けることが必要です。

(5) 地域におけるスポーツとの連携

学校教育活動の一環としての運動部活動の趣旨を押さえた上で、地域におけるスポーツクラブや総合型地域スポーツクラブ等の現状や動向を踏まえながら、連携を図っていくことが必要です。

そのためには、地域からの外部指導者の導入や地域の体育施設の利用、民間スポーツクラブを含めた地域のスポーツクラブでの練習など、できることから取り組みはじめることが必要です。

参考資料

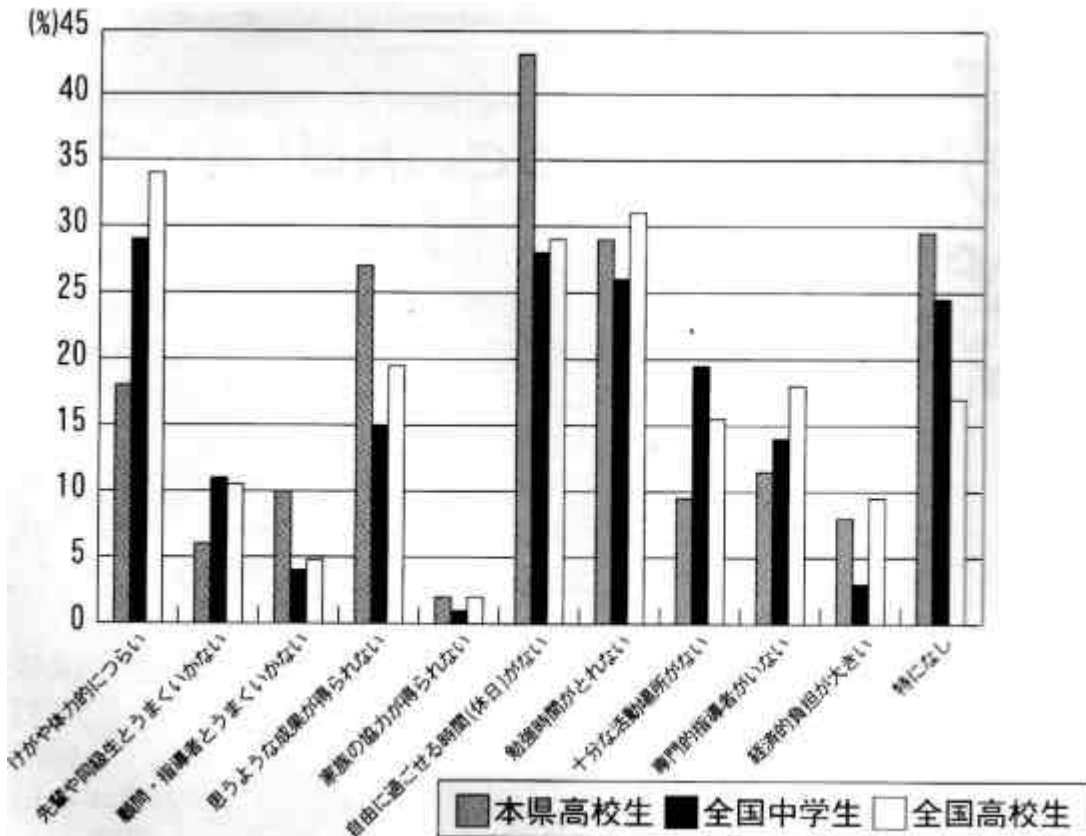


図1 部活動に関する悩み(平成10年栃高体連及び平成8年文部省調査結果より作成)

(6) 安全管理と事故防止

指導者には指導責任として、危険を予見し回避する注意義務があります。計画の段階から十分な安全対策を具体化しておくことが必要です。

そのためには、指導者は日ごろから、生徒の主体的な事故防止につながる指導を計画的に行うことが必要です。また、生徒の発育や発達の特徴を理解するとともに、事故が発生した場合の応急手当の方法について学んでおくことも重要です。

おわりに

以上、概要について述べましたが、運動部活動の発展・振興のため、中学校、高等学校の運動部関係の皆様、「魅力ある運動部活動 - 完全学校週5日制を踏まえて - 」(平成13年1月)を十分に御活用いただきたいと思います。

なお、小学校部活動については、「児童のスポーツ活動指導の手引き」(平成7年度)を御活用ください。

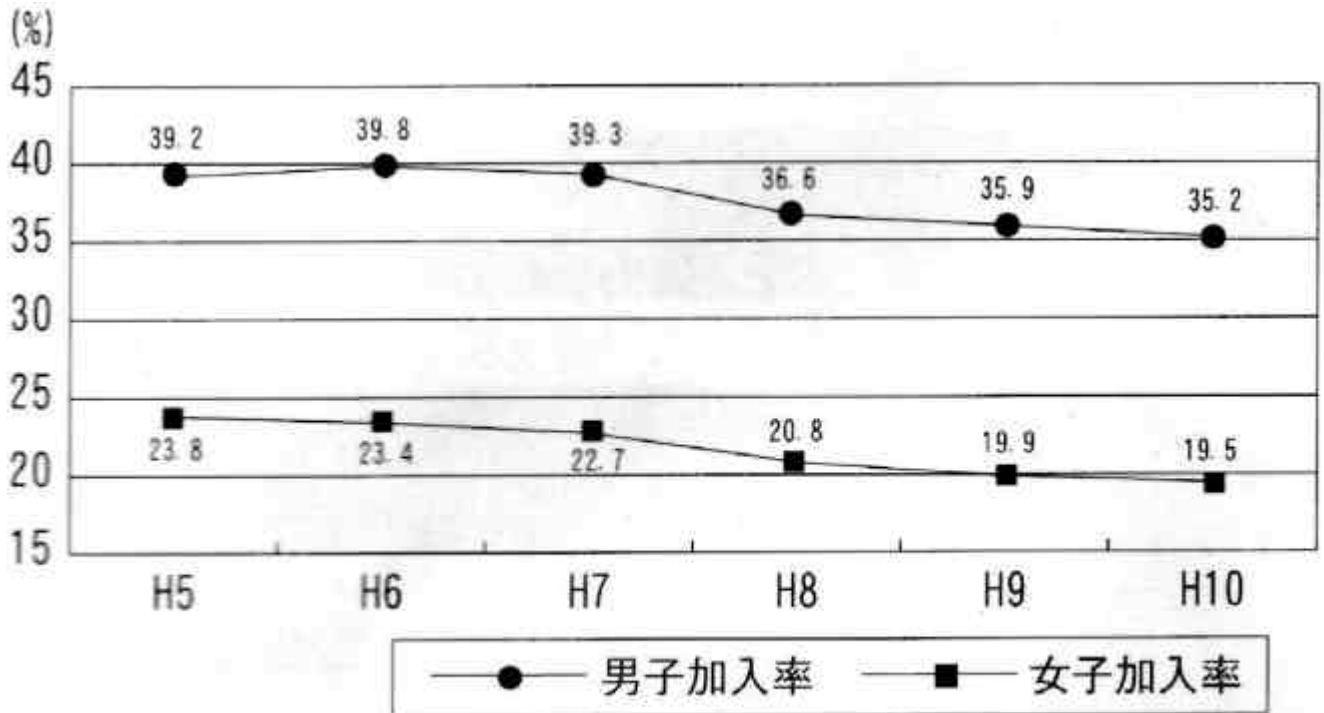


図2 本県高等学校運動部加入率の推移(平成10年県教育委員会調査)

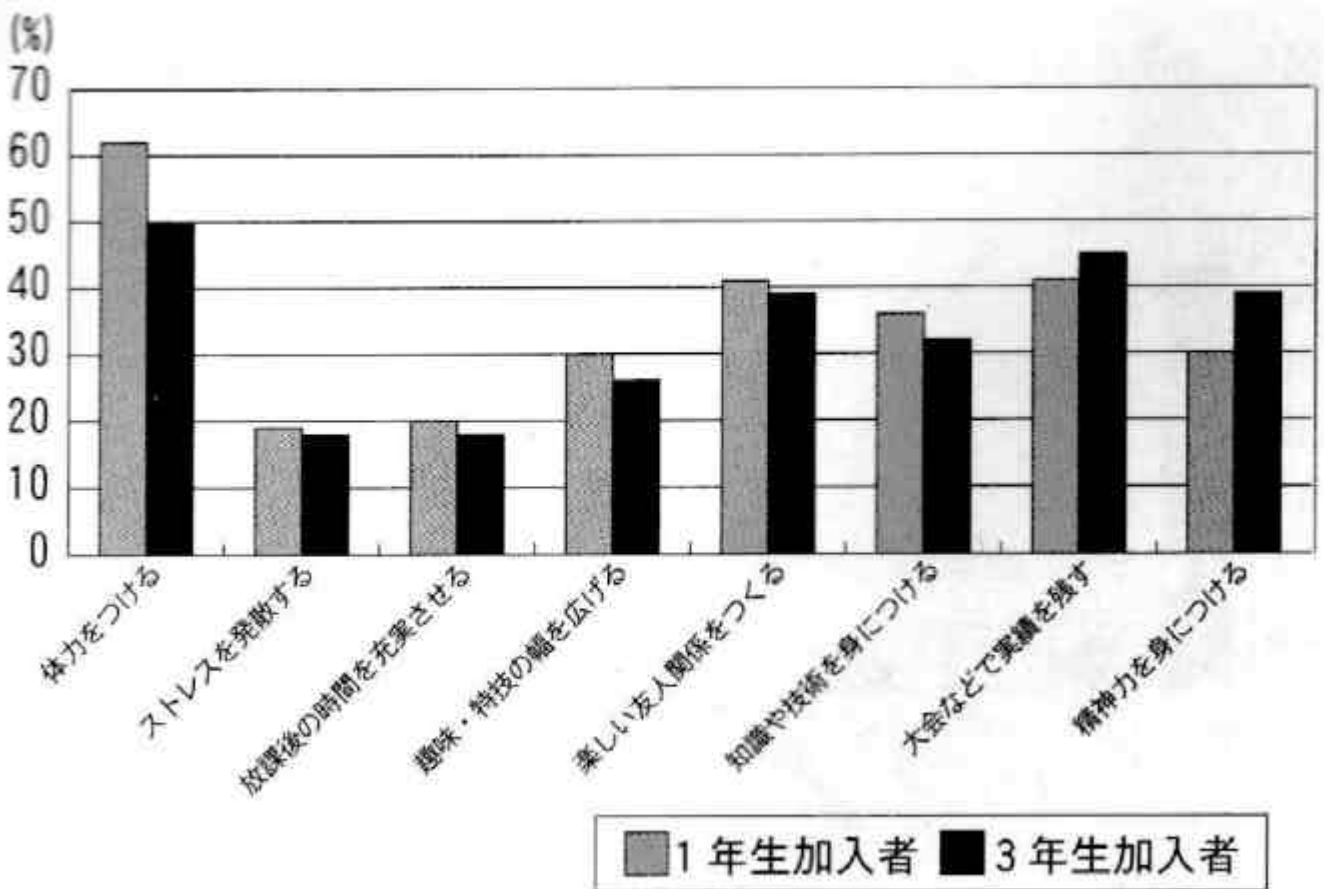


図3 部活動に求めているもの(平成10年栃高体連調査)

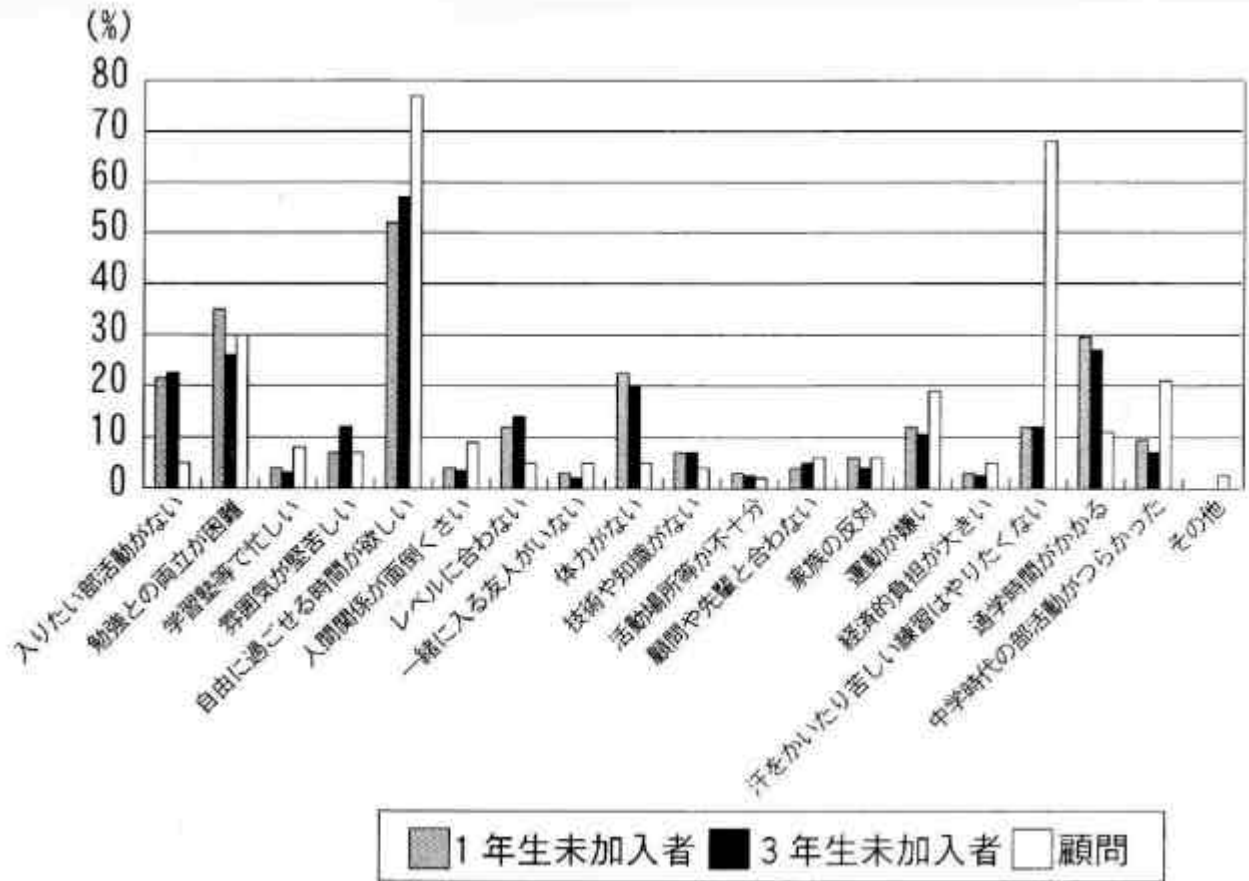


図4 運動部に入部しない理由(平成10年栃高体連調査)

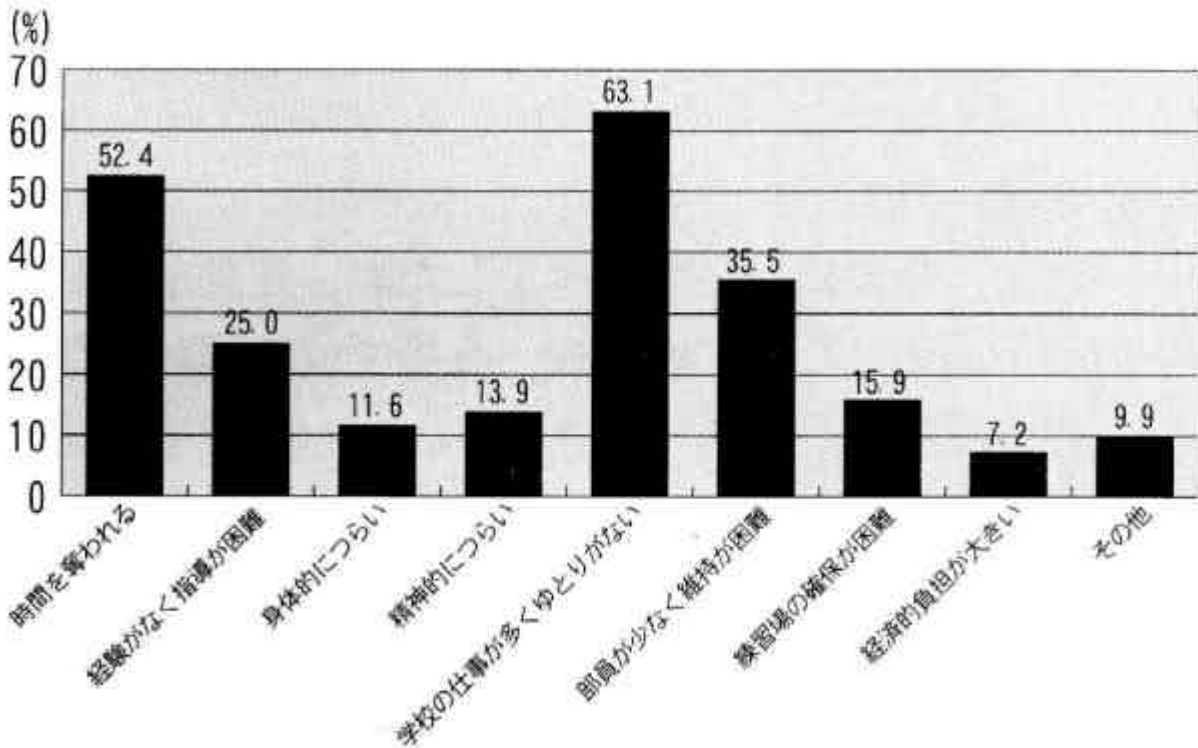


図5 部活動に対する指導者の考え(平成10年栃高体連調査)

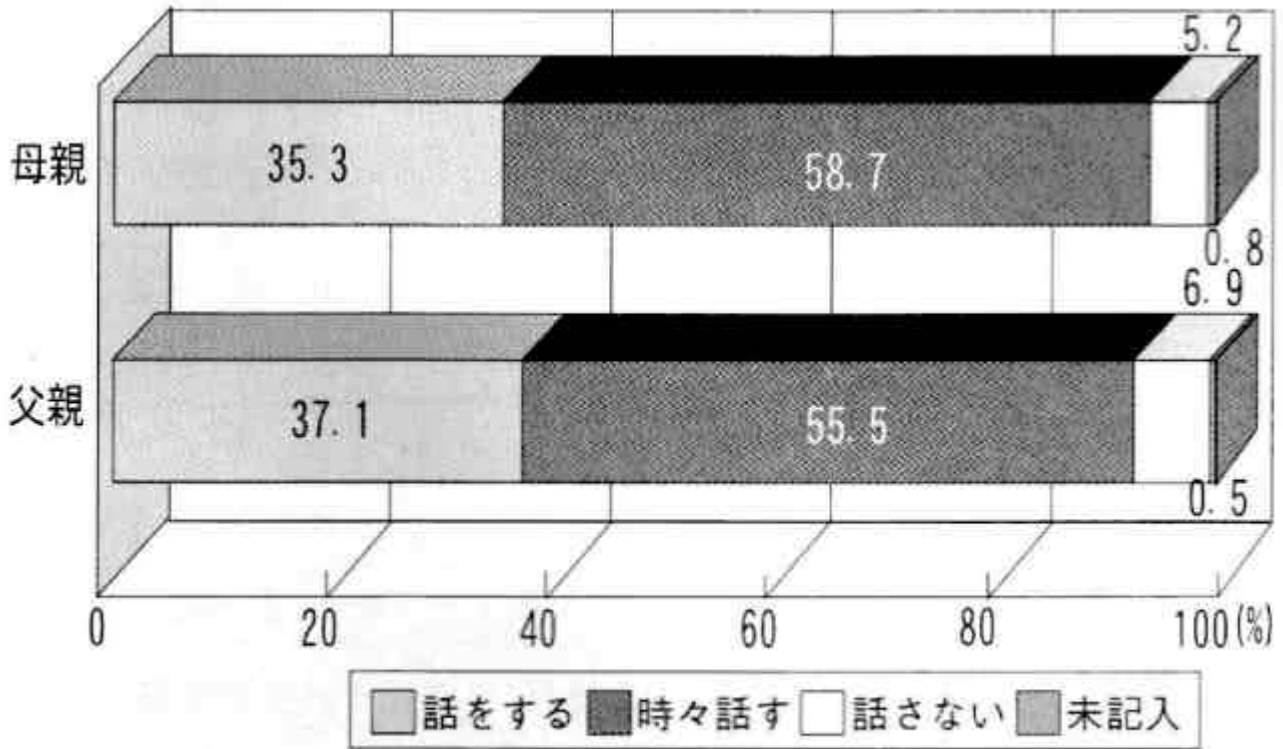


図6 お子さんと部活動に関して話をしますか(平成10年栃高体連調査)

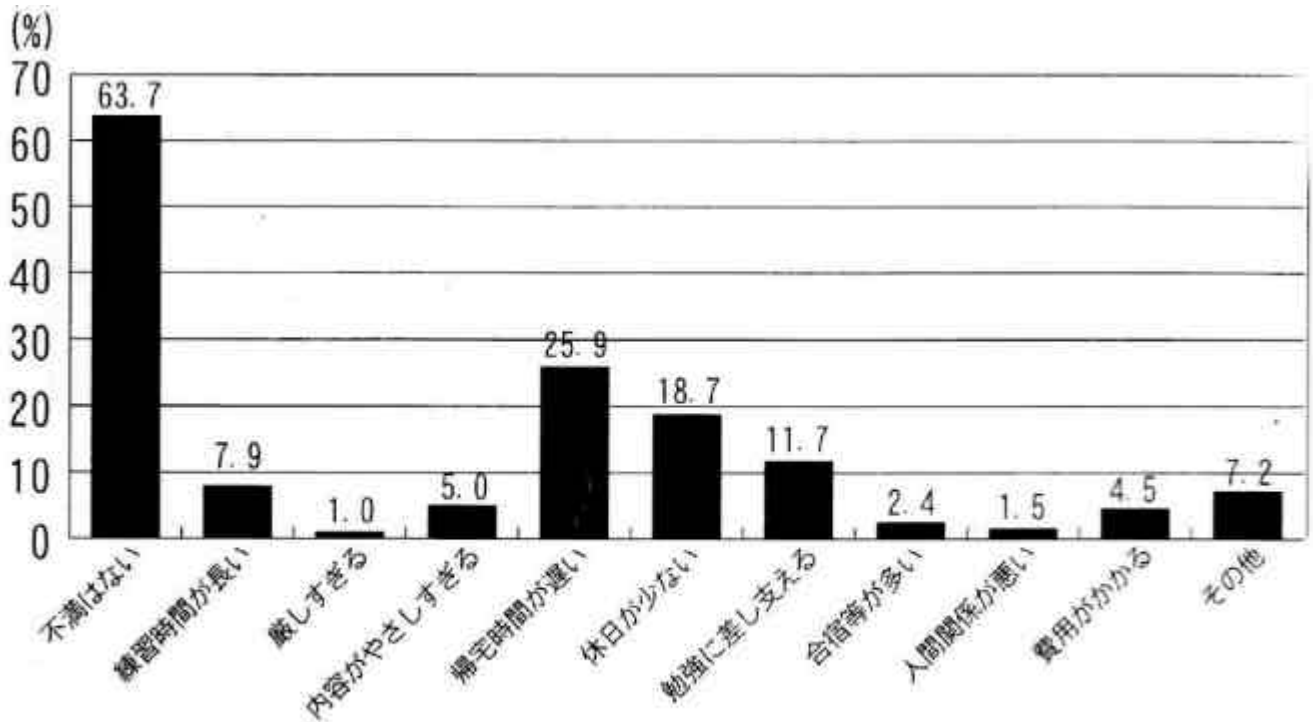


図7 部活動に対する不満(平成10年栃高体連調査)

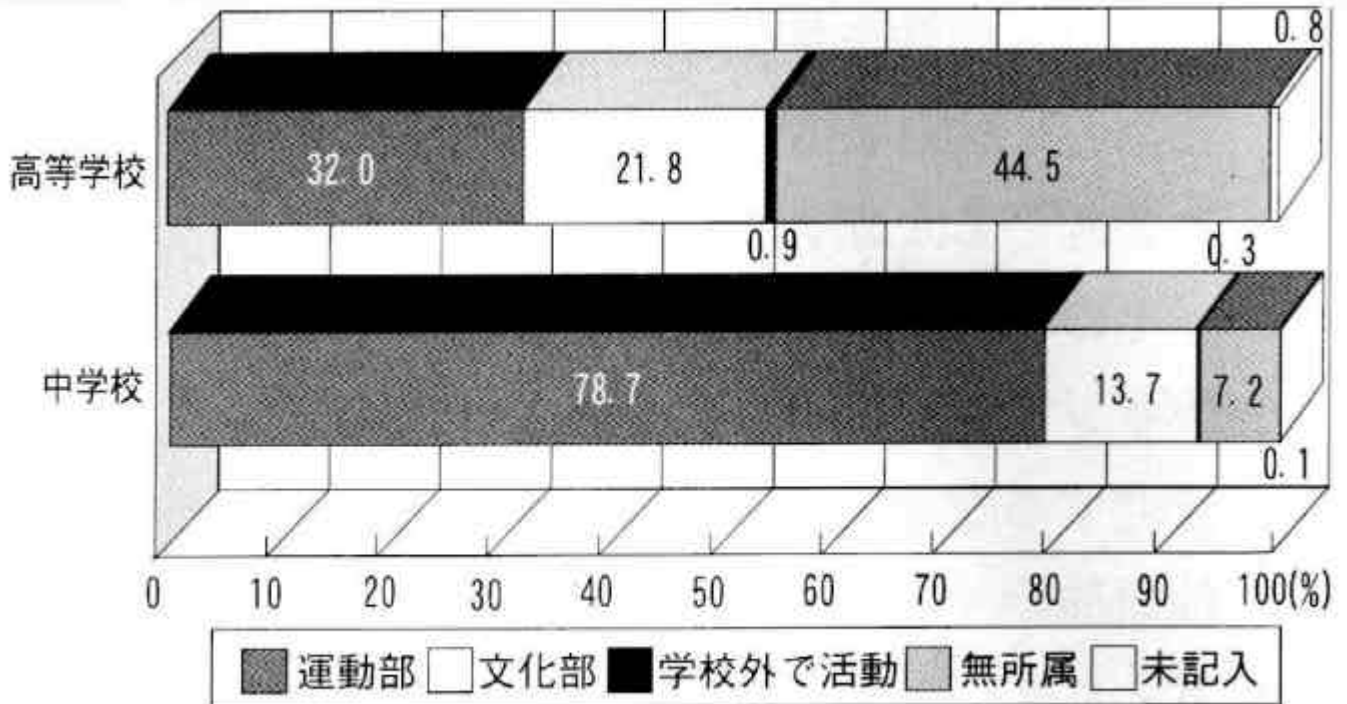


図8 部活動参加状況(平成10年栃高体連調査)

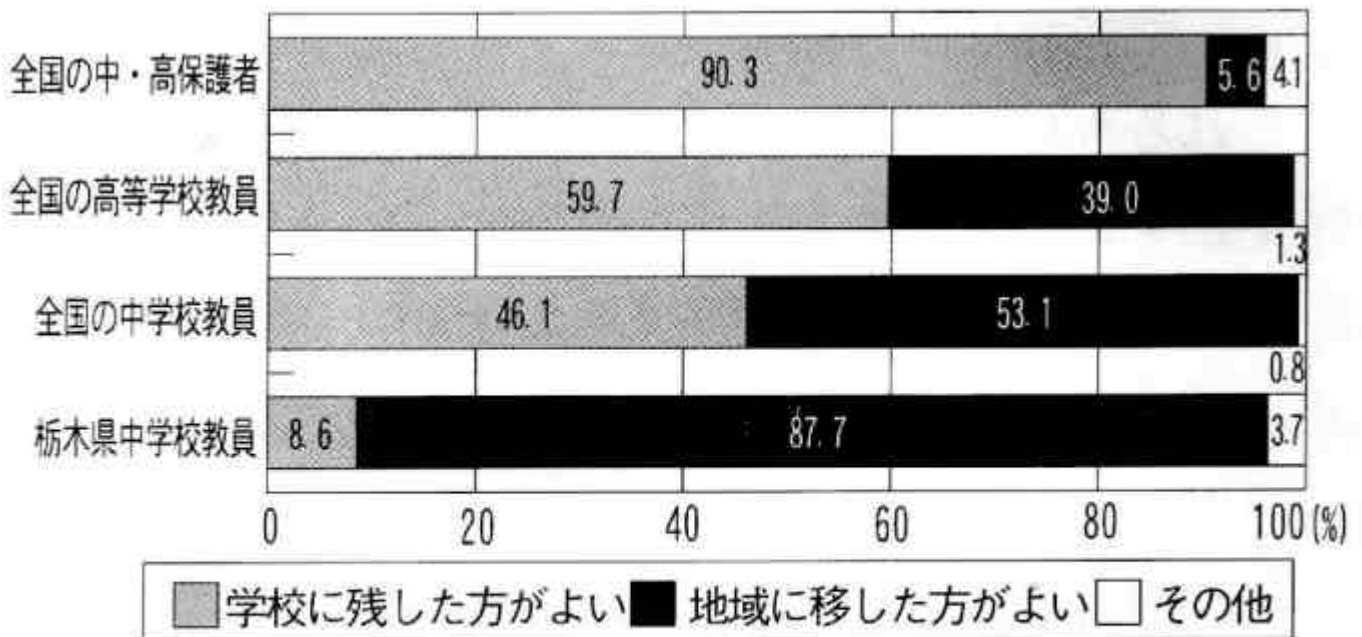


図9 今後の部活動の在り方
(栃木県のデータは平成10年県教職員協議会調査、全国のデータは平成8年文部省調査)

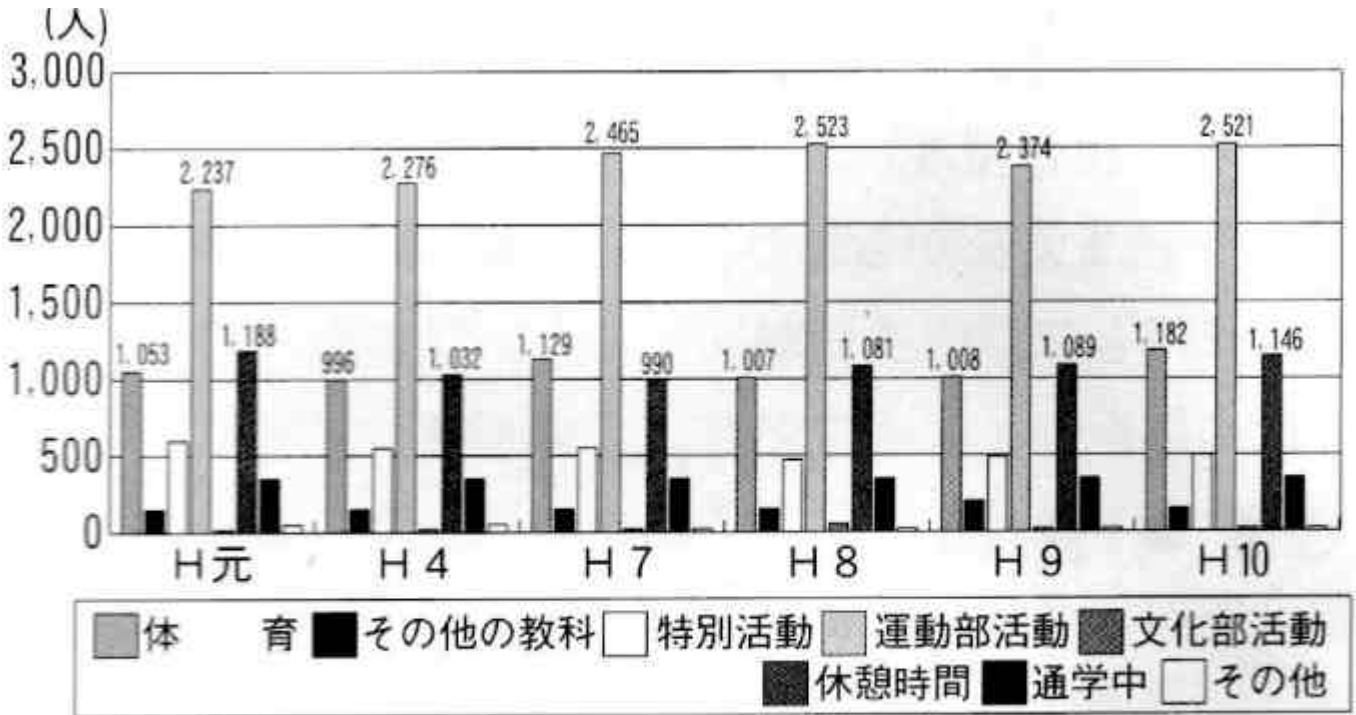


図10 活動別事故発生状況
(平成10年日本体育・学校健康センター栃木県支部調査)

ティータイム

「ふらっとのんびり山歩き」

先日久しぶりで日光の小田代ヶ原を一人で歩いてみた。
家を出るときに目的地は決めず、なんとなく車を日光方面に進め、計画も立てずに歩き出したのだ。分岐に着くと、案内板を見てその都度進む方向を決め、途中の景色をゆっくり眺めたり、のんびり食事をとったりしながら、通常のコースタイムの1.5倍はかかったろうか。

気の合った仲間同士で話しながらの山歩きの楽しさも格別だが、たまには自然の音に浸り、木々の緑や空の色を楽しみながら一人歩きもいいものだ、と改めて思った次第である。

「自分を見つめる」などというたいそうなものではないが、一步一步体を運んでいく中で、ふっと無心になれる瞬間がある。風の香りを感じることができる。一杯の水のうまさを実感する。当たり前なのに感動できる自分を発見するのだ。

幸い本県は自然に恵まれている。少しだけ日常を離れて足をのばしてみると、今まで知らなかった場所や自分自身を見つけられるのではないだろうか。